



平成30年度 大学コンソーシアムやまがた事業報告書

地域貢献・活性化事業（担当：企画会議）

「ゆうキャンパス・ステーション」を中心に、大学コンソーシアムやまがたの目的に合う事業を企画・実施した。

（1）学生による地域貢献・活性化プロジェクト

本コンソーシアムの目的の一つである地域貢献・活性化を図るため、学生が企画・実施する地域貢献・活性化につながる事業を行った。

具体的には、企画会議において公募し、学生により構成されている団体から提案された企画について、地域貢献及び活性化のための事業となっているか、実現可能性、効果等を審議した上で可否を決定し、採択された企画を支援するために助成金を交付した。

今年度7件の応募があり、3件採択した。

【平成30年度 採択プロジェクト】

1. 企画名：山形空港おもてなしプロジェクト

団体名：東北楽（東北芸術工科大学）

目的：山形を訪れる人たちの最初の接点の場所である山形空港において、荷物を待たされるまでのイライラをなくし驚きと感動を与えることを目的とする。

内容：山形空港の手荷物ターンテーブルに、山形を表現するオブジェクトとして第1弾は「さくらんぼ」、第2弾は秋～冬に「樹氷」モチーフとした作品を展示する。

助成額：60,000円

期間：平成30年4月1日～平成30年12月31日

※活動実績書を**報告1**として添付。

2. 企画名：食資源を用いた地域活性化

団体名：飯豊町プロジェクト（山形大学）

目的：飯豊町の地域活性化の一環として、新たな名物として「おやき」の認知度を高めるとともに食べる雑草の「ひょう」の認知向上を通し、飯豊町に対する関心を高め、販売拡大・観光集客に繋げる。

内容：1. 「ひょう（おやき）」の認知度、販売促進に関するアンケート調査、及び飯豊町における「ひょう」の消費度、料理方法のアンケート調査。
2. 飯豊町内の児童に対して、「ひょう」、「おやき」に対する認知度を高めるための講話とアンケート調査を行う。
3. 上記1、2のアンケート調査の結果から、「ひょう」を用いたレシピの作成をおこない、「ひょう」の普及を行うとともに作成したレシピ集を家庭、道の駅などに配布する。

助成額：100,000円

期 間：平成30年6月1日～平成31年1月31日

※活動実績書を報告2として添付。

3. 企画名：SCITA（サイタ）発、科学の力で山形に輝きを!!

団体名：山形大学 SCITA センター学生スタッフ（山形大学）

目 的：近年の理科教育の早期導入に合わせ、理科の面白さを山形県内の子どもたちへ伝え、子どもたちの科学や生物への好奇心と探求心を育む。

- 内 容：1. 年間を通して SCITA センター内でクラゲなどの生物を育成し、大学訪問や実験教室で SCITA センターを訪れる子供たち・中学・高校及び一般の方に観察してもらう。
2. 山形の観光資源の一つになりつつあるクラゲを県内外各地のイベントで展示し、観察してもらうことで、自分たちが住む山形についてより知ってもらう。
3. 県内各地に赴いて科学実験教室を実施する。また、これまで参加していないイベントにも出向き、広く実験を体験してもらうことで、地域の人びととの交流を深め、地域の活性化を目指す。

助成額：100,000円

期 間：平成30年4月22日～平成31年3月31日

※活動実績書を報告3として添付。

(2) 「やまがた夜話」

5月～2月の毎週水曜日（変則開催有）18:30～19:30に「ゆうキャンパス・ステーション」で29回開講した。

・延べ受講者数 996人（前年度 1,238人）

【夜話のチラシ】

平成30年5月

平成30年7月

平成30年10月



平成30年度「やまがた夜話」実施一覧

●5月 テーマ:ユネスコ創造都市ってなんだろう？

回数	期日	題目	氏名	所属・職名	参加者数
1	5月2日(水)	ユネスコの目的は？創造都市って何？	山本 陽史	山形大学学術研究院教授	37
2	5月9日(水)	創造都市イタリア・ボローニャを知ろう	山本 陽史	山形大学学術研究院教授	37
3	5月16日(水)	山形の文化を世界へ発信しよう ー文学・音楽を中心にー	山本 陽史	山形大学学術研究院教授	41
4	5月23日(木)	もう一つの日本へ ーライシャワーの言葉ふたたびー	山本 陽史	山形大学学術研究院教授	36

小計 151 人

●7月 テーマ:医師の眼から見た、誰も知らない「シンガポール、ベトナム、香港」

5	7月4日(水)	シンガポール	八幡 芳和	元山形県立米沢栄養大学教授、山形ロイヤル病院医師	34
6	7月18日(水)	ベトナム	八幡 芳和	元山形県立米沢栄養大学教授、山形ロイヤル病院医師	27
7	7月25日(水)	香港	八幡 芳和	元山形県立米沢栄養大学教授、山形ロイヤル病院医師	26

小計 87 人

●9月 テーマ:月山に学び、地域を知る IV

8	9月5日(水)	月山のサワグルミ	児玉 勝義	月山マイスター	39
9	9月12日(水)	固雪の六十里越街道を歩く ー田麦俣～湯殿山参籠所ー	田中 秀樹	月山マイスター	43
10	9月19日(水)	立谷沢川はおもしろい！	八木 浩司	山形大学地域教育文化学部教授	40
11	9月26日(水)	「温泉」だけではない”肘折”の魅力	小林 孝一	月山マイスター	41

小計 163 人

●10月 テーマ:秋の夜長 科学の話あれこれ

12	10月3日(水)	ものづくりに活かすデータサイエンス ～データ駆動科学～	瀬尾 和哉	山形大学理学部教授	34
13	10月10日(水)	私たちの構成単位「細胞」から生命を知る	田村 康	山形大学理学部准教授	33
14	10月17日(水)	放射線を利用する ～医療から天文学まで～	中森 健之	山形大学理学部准教授	32
15	10月24日(水)	高分子材料の特性 ～だからみんなに使われる～	松井 淳	山形大学理学部教授	29

小計 128 人

●11月 テーマ:日本人は風景をどう描いてきたか -文学と絵画から

16	11月7日(水)	山形県内の八景めぐり -江戸後期のむらおこし	藤田 洋治	山形大学地域教育 文化学部教授	41
17	11月14日(水)	山形十景に見る明治時代の山形市 内	山本 陽史	山形大学学術研究 院教授	52
18	11月21日(水)	「湘南」って何だろう? 日本人の景 勝のイメージ	佐藤 琴	山形大学学士課程基 盤教育機構准教授	41
19	11月28日(水)	山形の歌枕と文学 -和歌・俳諧・ 短歌を中心に	藤田 洋治	山形大学地域教育 文化学部教授	37

小計 171 人

●12月 テーマ:健康長寿へのみちしるべ

20	12月6日(木)	健康長寿を決める因子	内田 勝雄	山形県立保健医療大 学名誉教授	42
21	12月13日(木)	太りやすさ、太りにくさの科学	内田 勝雄	山形県立保健医療大 学名誉教授	36
22	12月20日(木)	フレイル、介護と進まないために	内田 勝雄	山形県立保健医療大 学名誉教授	32

小計 110 人

●1月~3月 テーマ:放送大学山形学習センター教養講座

23	1月16日(水)	SDGs と科学	栗山 恭直	放送大学客員教授/ 山形大学教授・理学 部担当	24
24	1月23日(水)	あまり知られていないパラリンピック の話 -今から東京パラリンピック を楽しむために-	千葉 登	放送大学客員准教授 /山形県立保健医療 大学准教授	15
25	2月6日(水)	山形県インバウンド観光の動向につ いて-口コミ情報の分析から-	下平 裕之	放送大学客員教授/ 山形大学教授・人文 社会科学部担当	22
26	2月13日(水)	土門拳の旧制中学校時代	山本 陽史	放送大学客員教授/ 山形大学教授・EM 部担当	29
27	2月20日(水)	“記憶”の心理学	佐藤 宏平	放送大学客員准教授 /山形大学准教授・ 地域教育文化学部担 当	44
28	2月27日(水)	ことばにしてみましよう	富田かおる	放送大学客員教授/ 山形大学教授・人文 社会科学部担当	24
29	3月1日(金)	算数の“学び直し”	佐藤 圓治	放送大学山形学習セ ンター所長/山形大 学名誉教授	28

小計 186 人

延べ人数 996 人

(3) 小学生を対象とした体験型学習の開催

各機関へ予算枠を示して企画を募集し、企画会議が選定した企画を実施。

4件の応募があり、2件採択した。

【平成30年度 採択プロジェクト】

1. 企画名：高専学生によるサイエンスアカデミー ～ピタゴラスイッチ／ぶくぶく実験～
機関名：鶴岡工業高等専門学校・基盤教育グループ

内 容：小学生の親子を対象に1組にして、2名の学生が科学のしくみを説明しながら創作・実験を行う。ピタゴラ装置には会場となる鶴岡市櫛引地域で不要となった剪定枝を用い、身近な道具と組み合わせて制作する。

助成額：50,000円

実施日：平成30年10月7日（日）

会場等：鶴岡市櫛引生涯学習センター

※実施報告書を「報告4」として添付。

2. 企画名：こども大工道具体験教室 ～Daiku レンジャーと一緒に

機関名：山形工科短期大学校

内 容：「山形ものづくりフェスタ」において、かんながけや墨付けなど、大工道具の体験教室を行う。また、技能尊重シンボルとなるキャラクター「Daiku レンジャー」を学生とともに考え、楽しく技能体験をしてもらえるように工夫する。

助成額：40,000円

実施日：平成30年11月17日（日）、18日（日）

会場等：山形市山形国際交流プラザ（山形ビッグウイング）

※実施報告書を「報告5」として添付。

(4) プロスポーツを活用した地域活性化活動の開催

企画名：モンテディオ山形杯 雪中棚田サッカー大会 in 大蔵2019

会 場：山辺町大蔵・中公民館及び棚田

内 容：一般公募の11チーム及びモンテディオ山形ジュニアユースチームの12チームが参加して、山辺町大蔵地区の棚田でサッカー大会とわらび汁交流会を行うもの。今回で8回目の開催となる。

時 期：平成31年2月16日（土）

参加人数：選手約80人とその応援者、大会スタッフ約40人（東北芸術工科大学のボランティア学生8人含む）の約120人。

※新聞記事を「報告6」として添付。

これとは別に、他のプロスポーツとの連携を模索する。

【連携事業】（担当：事務局）

(1) 単位互換の推進

包括協定書に基づいた単位互換制度を推進した。また、同制度の利用推進を図るための交通費支援制度について周知するとともに、交通費の支援を行った。

【実施内容】

1. 単位互換推進チラシ等を作成。
2. 単位互換受講者数 前期 延15人、後期 延6人、合計 延21人。詳細は下表のと

おり。

3. 「ゆうキャンパス単位互換」履修学生交通費支援制度により下記のとおり支援を行った。
交通費支援制度利用者数 前期4人、後期1人、合計5人。

(東北公益文科大学 4人 山形県立米沢女子短期大学 1人)

【前期】

派遣大学等	受入大学等	科目名	人数
東北芸術工科大学	山形大学	Jリーグと地域社会	3
		日本近代文学概論	1
		表象文化概論	1
東北芸術工科大学	放送大学	日本語とコミュニケーション('15)	1
		新しい言語学('18)	1
		マーケティング論	1
東北公益文科大学	山形大学	体育・スポーツの哲学	1
		Jリーグと地域社会	1
東北公益文科大学	東北芸術工科大学	ロジカルライティング	2
県立米沢女子短期大学	山形大学	近現代中国文化概論	1
山形大学	東北芸術工科大学	色彩学	1
		芸術平和学	1
前期合計			15

【後期】

派遣大学等	受入大学等	科目名	人数
東北芸術工科大学	放送大学	西洋哲学の起源('16)	1
		心理学概論('18)	1
東北公益文科大学	東北芸術工科大学	広告ビジネス基礎	1
山形大学	東北芸術工科大学	コピーライティング	1
山形大学	放送大学	フィールドワークと民族誌('17)	1
		音を追求する('16)	1
後期合計			6

(2) 大学等進学説明会

高校生の進学意識形成や進学選択を支援するとともに、コンソーシアム加盟機関への進学率アップを目指して「大学等進学説明会」を開催した。

平成30年度大学等進学説明会一覧 (参加生徒数:延2,124名 参加保護者数:4名)

NO	高校名	開催日時	実施形態 参加数計等	分野()は参加数内訳	参加 延数
1	県立高島高校	5月17日(木) 16:30-17:30	個別進学相談 (3学年 約20名) (保護者同伴)	東北公益文科大学 東北文教大学 県立米沢女子短期大学	20

2	県立天童高校	5月18日(金) 13:40-15:20	大学・学部・学科 説明及び模擬講義 (1学年 130名) ①～④のグループ で開催	東北芸術工科大学④	①37 ②46 ③18 ④29
				東北公益文科大学②	
				東北文教大学①	
				県立産業技術短期大学校④	
				県立米沢栄養大学③	
山形大学①、②					
3	県立寒河江工業 高校	5月24日(木) 13:00-15:00	個別進学相談 (2学年 20名)	東北芸術工科大学	20
				県立産業技術短期大学校	
				山形大学	
4	新庄東高校	6月6日(水) 13:40-15:30	模擬講義 (1,2学年 92名)	東北文教大学	42
				山形大学	50
5	県立酒田西高校	6月7日(木) 14:15-15:45 2回開催	学部、学科の説明 (2学年 延 362名)	県立保健医療大学 看護(40)、理学療法(39)、 作業療法(19)	98
				県立米沢栄養大学	24
				山形大学 人文社会科学部(80)、地域 教育文化学部(83)、理学部 (42)、工学部(35)	240
6	山形学院高校	6月7日(木) 13:30-15:20 3回開催	個別進学相談 (3学年 延 51名)	羽陽学園短期大学	11
				東北芸術工科大学	18
				東北公益文科大学	7
				東北文教大学・同短期大学部	14
				県立産業技術短期大学校	1
7	県立鶴岡中央 高校	6月13日(水) 13:25-16:00	個別進学相談、 模擬講義 (2学年 208名)	羽陽学園短期大学	31
				東北芸術工科大学	24
				東北公益文科大学	18
				東北文教大学・同短期大学部	11
				山形県立産業技術短期大学 校庄内校	19
				電子情報(8)、国際経営(11)	
				県立農林大学校	2
				県立保健医療大学	36
				県立米沢栄養大学	30
県立米沢女子短期大学	4				
山形大学	33				
8	県立酒田光陵 高校	6月14日(木) 10:50-17:30	個別進学相談、受 験対策 (3学年 37名)	羽陽学園短期大学	9
				東北芸術工科大学	12
				東北公益文科大学	12
				東北文教大学・同短期大学部	4
9	米沢中央高校	6月14日(木) 13:30-15:00	模擬講義 (1-3学年特進コ ース 131名)	東北芸術工科大学	7
				東北公益文科大学	7
				東北文教大学	36
				県立産業技術短期大学校	12
				県立保健医療大学	23
				県立米沢女子短期大学	16
				山形大学	30

10	県立谷地高校	6月21日(木) 13:40-15:25	模擬講義 (1,2学年 118名)	羽陽学園短期大学	21
				東北芸術工科大学	28
				東北公益文科大学	29
				東北文教大学短期大学部	18
				山形大学工学部(13)、農学部(9)	22
11	県立庄内農業 高校	7月12日(木) 10:30-12:30	個別進学相談、 模擬講義 (3学年 12名)	東北芸術工科大学	2
				東北公益文科大学	4
				県立農林大学校	7
12	県立置賜農業 高校	7月23日(月) 15:30-16:30	個別進学相談 (1・2学年 10名)	東北文教大学短期大学部	7
				県立農林大学校	3
13	県立酒田東高校	9月12日(水) 14:35-17:30 2回開催	個別進学相談、 模擬講義 (1-2学年 延571 名)	山形県立保健医療大学 看護(70)、理学療法(45)	115
				山形県立米沢栄養大学	50
				山形大学 人文社会科学部 (グローバル(58)、法律(60))、 地域教育文化学部(88)、理 学部(70)、医学部(医 学)(45)、工学部(85)	406
14	県立新庄南高校	9月13日(木) 13:20-15:10	模擬講義 (2学年 92名)	羽陽学園短期大学	23
				東北芸術工科大学	15
				東北公益文科大学	16
				東北文教大学短期大学部	16
				山形大学	22
15	県立山形北高校	11月21日(水) 15:50-17:00	学部・学科説明 (1学年 200名 及び1年保護者 4名)	県立保健医療大学 看護(31+3)、理学療法・作 業療法(16)	50
				県立米沢栄養大学	8
				山形大学 人文社会科学部(58+1)、地 域教育文化学部(75)、理学 部・工学部・農学部(12)	146
16	県立新庄北高校	11月28日(水) 13:00-15:00	個別進学相談 (1~3学年希望者 33名)	東北公益文科大学	3
				県立産業技術短期大学校	2
				県立保健医療大学 看護(7)、理学療法(6)	13
				県立米沢栄養大学	4
				県立米沢女子短期大学	3
				山形大学	8
17	県立北村山高校	12月13日(木) 13:40-15:20 2回開催	個別進学相談 (2学年 32名)	羽陽学園短期大学	7
				東北公益文科大学	4
				東北文教大学・同短期大学部	11
				県立産業技術短期大学校	9
				県立農林大学校	1

(3) 講演会の開催（担当：山形大学）

若者の県内定着を促進するための講演会を開催した。

開催日：平成30年9月2日（日）13時30分

講師：林修氏（東進ハイスクール 東進衛星予備校
現代文講師・タレント）

会場：「やまぎんホール（山形県民会館）」大ホール

対象：中学・高校生の保護者及び高等教育機関関係者

入場料：無料

来場数：1,091人（うち、山形大学以外のコンソ加盟
機関から11人）

※経費負担、準備、運営全般は山形大学が行った。



教職員の交流事業（担当：事務局）

(1) 「第15回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」への参加

開催日：平成30年9月1日（土）、2日（日）

会場：公立はこだて未来大学（北海道函館市）

メインテーマ：「大学連携による学生と地域のエンパワーメント

～未来の地域づくりを目指して～

※報告書を **報告7** として添付。

(2) FD、SD研修会の開催及び参加

①FD研修：加盟機関の希望を検討しての実施や各機関で
開催する研修会等の紹介を行い参加を促した。

・平成30年9月14日（金）山形大学教員研修会
「基盤教育ワークショップ」

東北芸術工科大学 6人、羽陽学園短期大学 1人
山形大学 20人

このほか各機関からの研修会、講演会等の情報提供を行った。



②SD研修：学習障害等をテーマにした研修を実施した。

日時：平成30年8月30日（木）13:00～17:00

会場：ゆうキャンパス・ステーション

テーマ：障がいのある学生の理解と対応

～発達障がいを中心に～

講師：山形大学障がい学生支援センター講師
有海 順子 氏

参加者：羽陽学園短期大学1名、鶴岡工業高等専門学校3名、
東北芸術工科大学10名、山形大学3名の計17名の
教職員



広報事業 (担当：事務局)

(1) ゆうキャンパス広報パンフレットの作成

大学コンソーシアムやまがたの事業及び加盟校を簡潔に紹介するパンフレットを4,300部作成し、県内の高校及び加盟機関へ配布した。

(2) ゆうキャンパスホームページ等の充実・管理

常に新しい情報に更新するとともに、山形県が作成したポータルサイト「やまがたで学ぼう進学ガイド」のバナーを追加した。

- ・1日平均アクセス数 大学コンソーシアムやまがた…93
ゆうキャンパスNAVI …53

(3) ゆうキャンパス・ステーションの充実

ゆうキャンパス・ステーションの貸し出し回数は年間115回(うち土日祝祭日の利用は29回)。

なお、後期から職員の勤務体制を考慮し、土日祝祭日の貸し出しは、加盟機関の重要なイベント以外は行わないことにした。

加盟校の学校案内、各種イベントポスター、チラシによる情報提供を行った。

男女共同参画推進事業 (担当：ダイバーシティ推進ネットワーク会議)

本コンソーシアムに「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」が設置され、以下の活動を行った。

- 平成30年5月23日(水) 第1回ダイバーシティ推進ネットワーク会議開催
- 平成30年10月15日(月) 第2回ダイバーシティ推進ネットワーク会議開催
- 平成30年11月15日(木) 男女共同参画推進状況アンケートの実施
- 平成31年3月8日(金) ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業(連携型)に係るシンポジウムの開催

その他シンポジウム、セミナーの情報提供は以下のとおり

- 平成30年7月2日 男女共同参画セミナー
 - ・「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」のキック・オフセミナー計51名が参加(山大28名、DNP2名、栄養大4名、大学コンソーシアムやまがた9名、他8名)
- 平成30年9月18日 交換留学(山形大学からDNPへ～9月20日まで)
- 平成30年9月18日 外部資金獲得セミナー
 - ・連携機関の教職員、大学コンソーシアムやまがた加盟4機関の教職員など計42名が参加
- 平成30年11月2日 アカデミックイングリッシュセミナー
 - ・連携機関教職員、学生など計52名が参加

平成 30 年 11 月 10 日 女性研究者研究成果発表会

- ・連携機関の教員、学生、コンソーシアムやまがたの教職員など計 26 名が参加

交流会～女性研究者と話そう

- ・連携機関の教員、大学院生等、コンソーシアムやまがたの教員など計 12 名が参加

平成 30 年 11 月 22 日 博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー

- ・学生など計 28 名が参加（山形大 27 名、米沢短大 1 名）

※男女共同参画推進状況アンケート結果を「報告 8」として添付。

協力事業（担当：事務局）

(1) 山形未来プロジェクト「未来への贈り物」（山形新聞社）

若者の県内定着や流出抑制などを目的として、山形新聞社が主催する山形未来プロジェクト「未来への贈り物」のポスター巡回展示へ協力した。

【ポスター巡回展示の協力機関及び展示期間】

- ①山形大学：平成 30 年 12 月 17 日～12 月 20 日
- ②東北文教大学：平成 30 年 12 月 21 日～12 月 25 日
- ③ゆうキャンパス・ステーション：平成 30 年 12 月 26 日～平成 31 年 1 月 8 日
- ④東北公益文科大学：平成 31 年 1 月 9 日～1 月 15 日
- ⑤山形県立産業技術短期大学校庄内校：平成 31 年 1 月 15 日～1 月 18 日
- ⑥山形県立米沢栄養大学・同米沢女子短期大学：平成 31 年 1 月 21 日～1 月 25 日



(2) 日本一さくらんぼ祭り「学生パフォーマンスゆうキャンパスステージ」

日本一さくらんぼ祭り実行委員会（山形県総務部学事文書課）の依頼により、加盟機関へ参加サークル等の募集を依頼し、以下のとおり実施した。

事業名：第 7 回 日本一さくらんぼ祭り

日 時：平成 30 年 6 月 23 日（土）10:30～16:00

場 所：山形市 A Z（アズ）七日町前

内 容：下記の学生7団体が、学生パフォーマンス「やまがたゆうキャンパス・ステージ」に出演し、若さあふれるパフォーマンスを展開した

出場団体：・山形大学 JAZZ 研究会

- ・山形大学 花笠サークル 四面楚歌
- ・山形大学 コピーダンスサークル twinkle
- ・東北公益文科大学 アカペラサークル まごペル
- ・東北公益文科大学 ダンスサークル
- ・東北文教大学 軽音楽部 BY&M
- ・羽陽学園短期大学 ASHINAMI



山形県補助事業への協力・実施

(事業概要)

山形県が県内高等教育機関等における県内入学者確保対策（情報発信）への支援の一つとして考えた「県内高等教育機関等による連携事業（PRイベント事業）に対する支援」について、本コンソーシアムが、山形県専修学校各種学校協会や各専修学校等と連携して県の全面協力のもと以下のとおり実施した。

(事業内容)

○高等教育機関等PRイベントの実施

【1回目】平成30年11月4日（日）イオンモール三川

【2回目】平成31年 3月9日（土）イオンモール天童

※実施報告書を報告9、報告10として添付。



以上

様式第 2 号

活動実績書

団体名 東北楽（とうほくがく）

代表者 市川江真（芸術学部 3 年）

（顧問：本吉裕之（東北芸術工科大学准教授））

<p>企画名</p>	<p>山形空港おもてなしプロジェクト</p>
<p>目的 (活動によって期待される、地域貢献・活性化の具体的な内容)</p>	<p>山形空港に訪れる国内旅行者及び訪日旅行者に対し、手荷物受取ターンテーブルに、山形を表現するオブジェを作成し、設置した。山形を訪れて、最初の接点である空港の「荷持が出てくるまで待たされるイライラ」を無くし、驚くと感動を与えることを目的とし、山形到着後、一番最初の「おもてなし」を目指した。</p>
<p>活動の内容 (具体的に)</p>	<p>東北芸術工科大学：チュートリアル「東北楽（学生代表：市川江真）」に所属する芸術学部及びデザイン工学部の学生の有志 10 名にて、デザイン作成、粘土成型、色付けなどの作業を実施。2018 年 4 月末に山形空港に納品し、5/17 に設置。山形新聞社を始めとする多くのマスコミが訪れ、全国放送のテレビなどでも発信された。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <p>山形県庁農林水産部より「山形 C12 号」の模型の依頼があり、6 月に納品。さくらんぼ祭りにてお披露目となる。また、吉村県知事より「紅秀峰」「紅さやか」「紅てまり」「月山錦」の製作依頼があり、12/21 に完成。知事の都合により 2019/2/13 に贈呈式を実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>
<p>実施時期</p>	<p>平成 30 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 12 月 31 日</p>

様式第 2 号

活動実績書

団体名 飯豊町プロジェクト
代表者 奈良 桃子

企画名	食資源を用いた地域活性化																		
目的 (活動によって期待される、地域貢献・活性化の具体的な内容)	<p>これまで、私たちは、飯豊町の地域活性化の一環として、飯豊町で古くから食べられてきた、食べる雑草こと「ひょう」に着目し、ひょうを用いたおやきの商品開発を行ってきた。平成 29 年 11 月に飯豊町のイベントで試験販売したところ、約 250 個が全て完売した。</p> <p>現在は町内の道の駅にて土日限定で販売しており、今後は東京のアンテナショップなどでの販売拡大を図る予定である。しかし、山形県および飯豊町におけるおやきの認知度は、低い状況にある。そのため、全国発信の足掛かりとして、情報発信力をもつ若い世代を中心に認知度を高める活動を行う必要がある。また、飯豊町の新たな名物としておやきを定着させるためには、地域の人々から愛着を持たれる必要がある。しかし、飯豊町の若い世代では、ひょうを食べる文化が徐々に薄れつつある。そのため、ひょうへの関心を高め、飯豊町内でのひょうの普及活動を行う必要がある。</p> <p>そこで、今回の活動では、若者に対しておやきの認知度を高め、飯豊町への関心を持たせること、および飯豊町でのひょうの普及を目的とする。</p> <p>この活動により、おやき(ひょう)の認知向上を通してより多くの方々の飯豊町に対する関心を高め、販売拡大・観光集客の効果が期待される。また、飯豊町でのひょうの普及を行うことで、おやきを飯豊町の名物として定着させるだけでなく地域への愛着を高める効果が期待できる。</p>																		
活動の内容 (具体的に)	<p>ひょうおよびおやきの認知度を高めるために、県内・県外の男女(大学生)と飯豊町内の児童(6-12歳)に対して以下の活動を行った。</p> <p><1. アンケート調査></p> <p>ひょうおよびおやきの認知度・販売促進に関するアンケート調査を行った。</p> <p>① 対象者：山形大学生男女(大学生) 試食用おやきを無料配布し、食後にアンケート調査を行った。</p> <table border="1" data-bbox="384 1400 1334 1476"> <thead> <tr> <th>日時</th> <th>場所</th> <th>サンプル数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年 8 月 9 日(木)</td> <td>山形大学講義室</td> <td>115</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 対象者：飯豊町立第一小学校の児童 試食用おやきを無料配布し、食後にアンケート調査を行った。</p> <table border="1" data-bbox="384 1552 1334 1666"> <thead> <tr> <th>日時</th> <th>場所</th> <th>サンプル数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年 8 月 10 日(金)</td> <td>飯豊町立第一小学校</td> <td>158</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 対象者：飯豊町立第一小学校の児童の保護者(各世帯で 1 名) 各家庭で主に調理を行っている者を対象にアンケート調査を実施した。児童を通して配布し一週間後に小学校にて回収した。</p> <table border="1" data-bbox="384 1780 1334 1856"> <thead> <tr> <th>日時</th> <th>場所</th> <th>サンプル数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年 8 月 10 日(金)</td> <td>飯豊町立第一小学校校区</td> <td>124</td> </tr> </tbody> </table> <p>◇試食に用いるおやき・資材について◇ 試食に用いたおやきは、山形大学内の調理室にて作成し、当日電子レンジで温め、袋に詰めて配布した。 また、提供するために必要な資材は購入し、その他必要となる爪楊枝、布巾、</p>	日時	場所	サンプル数(人)	平成 30 年 8 月 9 日(木)	山形大学講義室	115	日時	場所	サンプル数(人)	平成 30 年 8 月 10 日(金)	飯豊町立第一小学校	158	日時	場所	サンプル数(人)	平成 30 年 8 月 10 日(金)	飯豊町立第一小学校校区	124
日時	場所	サンプル数(人)																	
平成 30 年 8 月 9 日(木)	山形大学講義室	115																	
日時	場所	サンプル数(人)																	
平成 30 年 8 月 10 日(金)	飯豊町立第一小学校	158																	
日時	場所	サンプル数(人)																	
平成 30 年 8 月 10 日(金)	飯豊町立第一小学校校区	124																	

活動の内容
(具体的に)

調理器具、ゴミ袋等は大学にあるものを使用した。

<2. 飯豊町内の児童に対しての講話>

飯豊町において、ひょうおよびおやきに対する認知度を高めるために、飯豊町内の児童に対して講話を行った。講話では主にひょうについて取り上げ、同日に1の②で示したおやきの試食とアンケート調査を行った。

日時	場所	サンプル数(人)
平成30年8月10日 (金)	飯豊町立第一小学校	158

※講話は1日で全校生徒に一斉に行った。

<3. ひょうを用いたレシピ集の作成>

1の③で得られたアンケート調査の結果から、ひょうを用いたレシピ集を作成し、ひょうの普及を行った。作成したレシピ集は、協力していただいた家庭、大学生、飯豊町役場商工観光課、株式会社飯豊町地域振興公社「しらさぎ荘」、マルシチ米穀株式会社、山形大学内、大学コンソーシアムやまがたに配布した。

<4. アンケート調査の結果>

【1-①の結果】

飯豊町・ひょうの認知度は県外出身者が低いことが明らかとなった。また、おやきの認知度は県内外とも低く、購入歴も少ない傾向にあった。購買理由は、県内出身者は珍しさを、県外出身者は味や見た目を重視することが明らかとなった。そのため、販売時には販売機会の増加および飯豊町やひょうのPR、試食販売・ポスターの提示が有効であると示唆された。次に商品評価は、最も高い評価が「味」であり、最も低い評価が「価格」であった。味は、嗜好度の結果からも県内外とも、皮はやや硬く、味がやや濃いと回答する傾向にあった。そのため、今後は皮および味の濃さの改良が必要であると考えられる。また価格は、適正価格および購買意欲度の結果からも、県内外とも高いと回答する傾向にあった。しかし、これは試食時のおやきが実物の1/3であったことが影響していると考えられた。

さらに愛着度は、県内出身の方が愛着を感じるということが示唆された。一方で、観光意欲度は県内外とも「行ってみたいとは思わない」傾向にあり、観光意欲度の向上が課題としてあげられた。また、今後さらに販路を拡大していくにあたり、おやきの冷凍化および地産地消の食材を用いた新たな味付けとして味噌味、トマト味を検討中であり、商品化に向けて改良および試食アンケート調査を行う必要があると考えられる。

【1-②, ③, 3の結果】

児童および保護者アンケートより、保護者アンケートより、ひょうを食べる文化は20~30代の保護者を中心に児童への継承がなされていないことが明らかとなった。また、家で食べたいひょう使用料理は、保護者・児童共に、家庭で日常的に食べられる料理にひょうを加えたものが好まれる傾向にあった。よって、家庭で日常的に食べられる料理にひょうを加え、親子で簡単に調理できるレシピ集を作成することとした。

以上より、計20種類のひょうを用いたレシピを記載したレシピ集を作成し、飯豊町立第一小学校に通う児童および保護者、飯豊町役場飯豊町商工観光課、株式会社飯豊町地域振興公社しらさぎ荘、マルシチ米穀株式会社、山形大学および学生に配布した。今後、ひょうを食べる文化の継承や意識の変化の動向を調査する必要があると考えられる。

実施時期

平成30年6月1日 ~ 平成31年1月31日

様式第 2 号

活動実績書

団体名 山形大学 SCITA センター学生スタッフ
 代表者 袖 統哉

企画名	SCITA（サイタ）発、科学の力で山形に輝きを!!
目的 （活動によって期待される、地域貢献・活性化の具体的な内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の理科教育の早期導入に合わせ、身近に科学や生物について体感できる場を提供することで理科の面白さを山形県内の子どもたちに伝え、子どもたちの科学や生物への好奇心と探求心を育む。 ・県内各地のイベントに参加し、科学体験を通し科学の楽しさや不思議さを老若男女問わず伝え、世代間のコミュニケーションをとる機会をつくり、地域の活性化を図る。 ・全国の科学ボランティア団体と交流をさらに深め、学生スタッフ自身のコミュニケーション能力、イベントの企画、運営能力の向上を図りより一層地域社会に貢献できる活動を目指す。 <p>（添付資料） 資料 1：平成 30 年度山形大学 SCITA センター学生スタッフ活動一覧 資料 2：平成 30 年度山形大学 SCITA センター学生スタッフ活動写真集</p>
活動実績 （具体的に）	<p>（1）近年の理科教育の早期導入に合わせ、身近に科学や生物について体感できる場を提供することで理科の面白さを山形県内の子どもたちに伝え、子どもたちの科学や生物への好奇心と探求心を育む。</p> <p>SCITA センター内で生活に身近な生物を飼育し、SCITA センターを見学に来てくださった一般の方々に間近で観察していただき、また透明標本等で普段は見えない体内の骨格構造まで知っていただきました。近年の理科教育の早期導入に合わせ、保育園の子どもたちから大人まで生物について体感できる身近な場所となり、幼いから生物への好奇心と探求心を育むことができました。また、クラゲについては成体だけではなく、幼生の段階から観察してもらったことで山形の一観光資源であるクラゲについて関心を持ってもらい、より深く理解していただきました。</p> <p>またこれまでの多くのイベントのように実験を体験してもらい、原理説明を聞いてもらうだけではなく、夏休みの自由研究という、時間をかけてできるものに学生がサポートをしつつ子どもたち自らになぜそのような実験結果になったのかを考察し考えてもらいました。この経験によって私たちはもちろんのこと、イベントに参加してもらった子どもたちも普段とは違う雰囲気の中、実験内容について深く考え、実験方法から自分で考え結果を考察までするという、普段はなかなかできない体験をできたと確信しています。</p>

	<p>さらに今年度は東北芸術工科大学の学生の皆さんにもお手伝いいただき夏休みの自由研究サポート講座を行うことができました。これにより、今までの視点からはできないアドバイスを参加してくれた子どもたちにすることができ、より一層子どもたちの科学への好奇心と探求心を育むことができました。</p> <p>(2) 全国の科学ボランティア団体と交流をさらに深め、学生スタッフ自身のコミュニケーション能力、イベントの企画、運営能力の向上を図りより一層地域社会に貢献できる活動を目指す。</p> <p>既存のイベントで科学実験を体験できるブースを出展するだけでなく、自分たちで科学実験を体験できるブースを多数出展できる科学イベントを主催し、全国の他の科学ボランティア団体を招聘して科学イベントを開催しました。この際に他の団体の学生と交流を深め、学生自身のコミュニケーション能力、イベントの企画、運営能力の向上を図ることができました。また、この際には夏休みの自由研究サポートでもお世話になった東北芸術工科大学の学生の皆さんのご協力を得て、看板作成を依頼させていただきました。今回限りの縁ではなく継続的な縁を作ることができ、今後もイベントを開催する際には協力しあえるつながりを作ることができました。これらにより今後、イベントを運営していく際により良いものができるようになり、一層社会に貢献できるイベントを運営できるようになりました。</p> <p>(3) 県内各地のイベントに参加し、科学体験を通し科学の楽しさや不思議さを老若男女問わず伝え、世代間のコミュニケーションをとる機会をつくり、地域の活性化を図る。</p> <p>昨年度までも継続的に行ってきた県内各地のイベントに赴き、科学を参加者に体感してもらうことについては、今年度はさらに老若男女問わず科学実験を体感してもらいました。これにより、昨今の少子高齢化や核家族化によって減少しつつある世代間における共通話題の提供ができ、世代間におけるコミュニケーション手段の一つを作ることができ、地域活性化に貢献できました。</p>
実施時期	平成 30 年 4 月 22 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日

※ 2 頁以内にとまとめてください。



10 月 18 日 保育園の子どもたちの訪問



7 月 31～8 月 3 日 夏休みの自由研究サポート

高専学生によるサイエンスアカデミー～ピタゴラスイッチ／ぶくぶく実験～

実施報告書

鶴岡工業高等専門学校創造工学科基盤教育グループ助教 森木 三穂

1. 開催日時：平成30年10月7日（日）
2. 会場：鶴岡市櫛引生涯学習センター（鶴岡市上山添文栄90）
※台風の影響により、当初予定していた会場から変更
3. イベント名：こしゃってマルシェ秋「科学であそぼう！」
4. 参加者：親子21組65名（子ども30名（うち小学生は22名）、保護者35名）
5. 実施内容：ピタゴラスイッチ／ぶくぶく実験

【鶴岡高専サイエンスアカデミープロジェクト】

鶴岡高専2年機械コース、化学・生物コースの学生計80名と教員3名による、本企画のためのプロジェクト。身の回りのもの、機械実習工場の廃材などを利用し、日ごろ学習した知識を応用したピタゴラ装置の体験と、身近なお菓子と炭酸飲料を利用した化学実験による科学教室の運営を目指した。

構想および製作は夏休み期間を利用し準備をした。当日は学生スタッフ9名と教員3名が運営した。



【当日の様子】

午前の部、午後の部各90分プログラムを組み、「親子で学ぶ」ことを目的とし、体験に留まらない、学生による仕組みの解説、質疑応答を重視した学習型の科学教室を企画した。内容は①ピタゴラ装置を見てみよう！／遊んでみよう！②スーパーボールを作ってみよう！③化学実験を試してみよう！の3種類である。（バスボムは資料に作り方を記載し、お土産として配布した。）

まず、11種類のピタゴラ装置を用意し、各装置には学生が1名付き、遊び方、仕組みを解説しながら子どもや保護者と共に体験し、学習した。次に装置の一つで使用したスーパーボールを自分たちで作る実験を行い、プラスチックの温度による形状の変化を学び、自分たちで作ったスーパーボールを利用して装置を動かすことをした。最後に、身近なお菓子（メントス）と炭酸飲料（今回はカナダドライジンジャーエール）を使ったぶくぶく（噴水）実験を行い、生活の中にある科学の不思議を学んだ。

※当初はこのぶくぶく実験を行うピタゴラ装置（メントスが炭酸飲料に落下する仕組み）も製作していたが、台風の影響により会場が和室に変更となったため

会場内で行うことができず、急遽別に場所を設けて実験を行った。

※すべての装置については添付資料（当日配布資料）を参照のこと。



【参加者アンケートより】

・ 恥ずかしがり屋の子どもたちでしたが、スーパーボール作りなどをしながら色々なものを見ることができよかったです。

・ 化学実験に興味を示していたので、このような機会があればまた参加したい。

・ 学生の皆さんがフレッシュで、良かったです。ピタゴラスイッチと一緒に息を飲んで見守り、親も一緒に喜んでいました。たぶん子どもよりも親のほうが楽しんでいました。

・ 子どもが楽しく勉強になったイベントでした。親も一緒に楽しむことができました。・ ジュースの実験は反応がすごくあるので、子どもも驚きがあり面白かったです。ピタゴラスイッチはやはり子どもたちはどうなっていくのかすごく面白く興味があり、参加できてよかったです。

・ 科学教室の内容はもちろん興味深く、子どもも楽しく参加していましたが、学生の皆さんと交流ができてとても良かったです。分かりやすい説明や優しい対応がとてもありがたかったです。またこのような機会があれば参加したいです。

・ お兄さん、お姉さんも優しく教えてくれてとても楽しんでいました。ピタゴラ大好きなので家でもチャレンジしたいです。ありがとうございました。

・ 子どもだけでなく、親も勉強になりました。質問にも答えてくれて、家でもできそうなものあったのでやってみたいです。

・ 子どもが技術に興味を持てるきっかけになったので、今後のためになったと思いました。

・ とても楽しかったです。お兄ちゃんお姉ちゃんと一緒にできて楽しそうでした。ありがとうございました。

・ どの実験もとても楽しく、勉強になった。スタッフの皆さんの対応がとても気持ちよく、素敵な時間を過ごすことができた。ありがとうございました。

・ 親子ともどもとても楽しむことができました。先生や生徒の方々も大変だと思いますが、嫌な顔もせず対応しており感心します。このようなイベントを今後も開催してください。今回はありがとうございました。



大工道具体験教室～Daiku レンジャーと一緒に～木製コースターを作ろう 実施報告書

山形県技能振興コーナー(山形県職業能力開発協会)主催の「ものづくりフェスタ in2018」が 11 月 17 日(土)及び 18 日(日)に、山形国際交流プラザ(山形ビッグウィング)で開催された。

この事業は、若者が進んで技能者を目指す環境の整備や高度な技術を有する技能者育成等を目的に、技能団体等と連携して行われている。

本校は、参加団体として、小学生を対象とした体験教室「大工道具体験教室～Daiku レンジャーと一緒に～木製コースターを作ろう」を行った。

内容は、学生が扮した本校の公式ヒーロー「Daiku レンジャー」が、参加した子供たちに、大工道具の使い方を教えて、一緒に木材からコースターを作成するものである。



ものづくりフェスタ in 山形 2018 ポスター



大工道具体験教室ポスター



Daiku レッド・ブルーと体験中の小学生



作品が完成間近

当日は会場内のアナウンスでも大きく紹介をしていただいた。参加数は1日目が30組、2日目が24組、合計54組の参加をいただき、大変好評であった。



会場内のアナウンサーからインタビュー



完成した作品をプレゼント



道具の準備をするレッド



レッド・ブルーで2組同時実施

今回の企画を通して、参加した子供たちが、ものづくりの楽しさを知るきっかけとなり、建設業をはじめ、ものづくり業界の人材不足解消につながることを願う。

(山形工科短期大学校 講師 阿部勇貴)

2019年（平成31年）2月17日（日曜日）

山形新聞

足ずぶずぶ、それシュート

山辺・モンテ
雪中サッカー



雪に足を取られながらも熱い戦いを繰り広げる参加者たち
＝山辺町大蔵

を見せた。
チームやサポーターの交
流の場をつくろうと、大学
コンソーシアムやまがた、
同町中地区有志の会、グル
ープ農夫の会が主催した。
優勝チームに「モンテ棚田
米」が贈られた。

（江袋和貴子）

モンテディオ山形杯雪中
棚田サッカー大会が16日、
山辺町大蔵で開かれた。小
雪舞う中、参加者はヘディ
ングを駆使したりダイナミ
ックに飛び込んだり、雪に
まみれながら懸命にボール

を追いつけていた。
「日本の棚田百選」に認
定された田んぼに特設コー
トを設置。町内や新潟市か
ら12チーム、約80人が出場
した。長靴を履くルールで、
雪上を走るのにも「苦勞の

様子。年齢も性別も関係な
く本気になってぶつかると
ど熱中していた。初出場の
斉藤亮介さん（24）＝山形市
寿町、公務員＝は「雪がず
ぶずぶで足が取られる。し
んどいけど楽しい」と笑顔

第 15 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム報告書

テーマ：「大学連携による学生と地域のエンパワーメント」

期 日：平成 30 年 9 月 1 日（土）、2 日（日）

場 所：公立はこだて未来大学

参加者：栗山恭直（山形大学教授・企画会議委員長）

9 月 1 日

- 1 基調講演：「大学連携による学生と地域のエンパワーメント」
～京都アライアンスの経験をふまえて～
講師 白石克孝（龍谷大学政策学部 教授）
- 2 シンポジウム：「大学連携による学生と地域のエンパワーメント」
～未来の地域づくりを目指して～
美馬のゆり 高橋和将 古館葵 古池順一郎
- 3 文教行政報告：高等教育政策の動向について
講師：三浦和幸（文部科学省高等教育局 大学振興課）

9 月 2 日

【分科会】第 3 分科会「地域と学生が交わり育つ暮らしの形を考える」

谷口知弘 福知山公立大学教授、菊地吉信 福井大学準教授、片木孝治 株式会社応用芸術研究所 代表取締役、長谷川大 NPO 法人街 ing 本郷 代表理事

初日の基調講演とシンポジウムでは、大学が連携して行うことによるメリットについて意見交換が行われた。他大学生から学びや気づきが報告された。地域での学生の活動で問題が解決されることは少なく、教育の場だと認識してもらうことが継続につながっていくようだ。学生が地域に入ることにより、昔のお祭りの復活など、地元プラスになることもある。学生の地元への定着率は低く、今後の課題である。

ポスターセッションでは、学生委員会での活動について情報を収集した。長崎や熊本では、加盟校から 2 名の学生が参加し、学生委員会を組織し活動している。とくにこの 2 箇所は、1 泊 2 日の合宿セミナーで研修を行った後、学生たちが企画を立て実行している。熊本では、合同の学園祭を持ち回りで開催したり、長崎では、観光案内ボランティアなどを行っていた。学生委員会を組織するには、合宿や会議での交通費の補助や企画での経費をサポートしていた。岡山では県と協力し、日ようび子ども大学など、児童向けの企画に学生が参加する取り組みの発表が数件見られた。静岡では、学生の企画を審査する場合、評価基準を決めて得点化して審査をおこなっていた。

二日目の分科会では、一人暮らしのお年寄りの家に学生が共同生活する仕組みが福知山・福井・東京での紹介があった。マッチングや共同生活のルールづくりがこの取り組みの成功の鍵であることが紹介された。

以上

大学コンソーシアムやまがた

「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」

平成30年度男女共同参画推進状況アンケート結果（まとめ）

（平成30年5月1日時点）

「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」男女共同参画推進状況アンケート結果（まとめ）

		1	2	3	4	
1	教育機関名	データの定義（平成30年5月1日現在）	羽陽学園短期大学	鶴岡工業高等専門学校	東北芸術工科大学	東北公益文科大学
2	教職員数	常勤（非常勤除く）の教員（助手以上）と常勤（非常勤除く）の事務職員の合計 *以下、3～6の教員・事務職員も同じ定義で、学校基本調査の常勤教職員数	27人	103人	194人	92人
3	女性教員数	常勤の女性教員の合計（助手以上）	5人	6人	14人	9人
4	女性教員の割合	すべての常勤教員（助手以上）に占める女性の割合	31.3%	9.6%	13.7%	20.5%
5	女性事務職員数	常勤の女性事務職員の合計	6人	13人	50人	28人
6	女性事務職員の割合	すべての常勤の事務職員数に占める女性の割合	54.5%	31.7%	54.3%	58.3%
7	女子学生数	女子学生の在籍数（全学年・全学部合計、大学院は除く）	169人	133人	1,565人	293人
8	女子学生の割合	すべての学生の在籍数（全学年・全学部合計、大学院は除く）に占める女子の割合	91.8%	15.7%	67.6%	35.3%
9	女性管理職の割合	課長級以上の事務職員、管理職の教員（副学部長以上・校長・園長など）、その他課長級以上に相当する管理職の合計に占める女性の割合	22.2%	0.0%	27.8%	22.2%
10	役員に占める女性の割合	法人の場合のみ記入 会社法の役員（学長・理事・監事など）に占める女性割合	10.0%		0.0%	6.3%
11	男女共同参画基本計画	有無 （有の場合、策定した年月を記入）	無	有 （平成23年9月）	無	無
12	男女共同参画推進の組織	有無 （有の場合、担当部署を記入）	無	有 （男女共同参画推進委員会）	無	無
13	一般事業主行動計画	有無 （有の場合、策定した年月を記入）	無	有 （平成28年3月）	有 （平成29年3月31日）	無
14	女性教員割合の目標	項目13有の場合、目標値を記入 無の場合は無記入		専門学科20%以上、全体で30%以上 （ただし、特に新規採用教員に占める女性の比率とし、早期達成を目指す）		
15	女性管理職割合の目標	項目13有の場合、目標値を記入 無の場合は無記入		教授職に占める割合7%以上、事務職員の管理職（課長以上）10%以上 （早期達成を目指す）		

「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」男女共同参画推進状況アンケート結果（まとめ）

	5	6	7	8	9	10
1 教育機関名	東北文教大学	東北文教大学短期大学部	国立大学法人山形大学	山形県立保健医療大学	山形県立米沢栄養大学	山形県立米沢女子短期大学
2 教職員数	43人	54人	2329人	67人	39人	50人
3 女性教員数	4人	20人	123人	31人	11人	10人
4 女性教員の割合	15.0%	55.0%	15.0%	56.4%	50.0%	30.3%
5 女性事務職員数	12人	14人	152人	7人	6人	6人
6 女性事務職員の割合	70.0%	77.0%	43.4%	58.3%	35.3%	35.3%
7 女子学生数	240人	323人	2772人	346人	170人	567人
8 女子学生の割合	73.0%	81.0%	36.8%	80.8%	95.5%	100.0%
9 女性管理職の割合	28.0%	60.0%	14.3%	33.3%	33.3%	16.7%
10 役員に占める女性の割合	9.0%	9.0%	12.5%	%	28.6%	28.6%
11 男女共同参画基本計画	無	無	有 (平成22年6月)	無	無	無
12 男女共同参画推進の組織	無	無	男女共同参画推進室	無	無	無
13 一般事業主行動計画	無	無	有（平成28年3月）	無	無	無
14 女性教員割合の目標			平成30年度末に15% (33年度末に17%)			
15 女性管理職割合の目標			平成30年度末に12% (33年度末に20%)			

「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」男女共同参画推進状況アンケート結果（まとめ）

	11	12	13	14	15	
1 教育機関名	放送大学山形学習センター	山形工科短期大学校	山形県立 産業技術短期大学校	山形県立 産業技術短期大学校庄内校	山形県立農林大学校	山形県 参考資料
2 教職員数	13人 (客員教員のみ7人)	10人	45人	25人	32人	女性職員の採用割合(29年度 試験)40.5% (採用84人うち 女性34人)
3 女性教員数	1人	0人	2人	1人	6人	
4 女性教員の割合	14.0%	0.0%	5.7%	5.6%	24.0%	
5 女性事務職員数	1人	2人	2人	1人	3人	
6 女性事務職員の割合	17.0%	20.0%	20.0%	14.3%	42.9%	
7 女子学生数	282人	10人	17人	13人	27人	
8 女子学生の割合	54.0%	32.0%	7.0%	21.0%	23.5%	
9 女性管理職の割合	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	女性管理職の割合 (平成30.4.1) 12.4%
10 役員に占める女性の割合		11.0%				
11 男女共同参画基本計画	無	無	山形県参照	山形県参照	山形県参照	有 (平成28年3月)
12 男女共同参画推進の組織	無	無	〃	〃	〃	人事課、若者支援・男女共 同参画課
13 一般事業主行動計画	無	無	〃	〃	〃	有(平成28年3月)
14 女性教員割合の目標		20.0%	〃	〃	〃	
15 女性管理職割合の目標		20.0%	〃	〃	〃	32年度までに15%以上

男女共同参画推進状況アンケート結果（現状と課題）

（平成30年5月1日時点）

* 各機関の報告を無記名で順不同に整理

現 状
「一人ひとりがいきいきと能力を発揮しながら、思いやり、支えあう山形県」を基本目標に山形県男女共同参画計画を推進している。
山形県全体としては女性の男女共同参画の推進は進んでいるが、学校単位では、女性教員数、学生数ともに少ない。
女性教員、女性事務職員、女子学生の割合が高く、女性管理職は一定の割合を占めている。育児・介護休業制度が整備され、業務との両立に理解のある雰囲気がある。
本学は医療系の単科大学であり、教員、事務職員、学生とも女性の割合が高く、女性が活躍している。
平成27年度から山形大学、米沢栄養大学、DNPが連携し、ダイバーシティ研究環境の実現に向けた事業を実施している。
大学と同一の法人が運営しているため、大学が実施する事業に参加する形で、短期大学の男女共同参画を推進している。
平成22年度から男女共同参画基本計画のもとでダイバーシティを推進し、大学内保育所設置などにより女性研究者が働きやすい環境や制度の整備、女性の研究者・管理職の割合の増加など、ほぼ目標を達成してきている。しかし、理系学部の女性教員の採用が困難で、役員などのトップ管理職に女性が少ない現状がある。女子の理系進学増加や女性大学院生の支援など次世代育成に努めている。
本校は県立の教育機関として「山形県男女共同参画計画」に基づいて男女共同参画に取り組んでいる。 本校研修部では、「アグリウーマン塾」を開塾し、積極的に農業経営に携わり、事業展開を図ろうとする女性農業者を支援している。また、「女性向け農業機械基礎研修」を実施し、農業機械の基礎知識と日常点検方法、トラクターの操作方法等の習得を図っている。
本校は理工系高専であり、女性教員の数は平成15年までは0人で平成24年から3人になり平成27年からようやく6人になった。女性教員の割合は向上したもののまだ、目標に遠い。さらに、教授職・管理職に占める女性教員の割合は目標からほど遠いのが現状である。女子学生の比率については現在約16%ほどになり20年前からはほぼ倍増している。（「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」採択）
女子学生の増加に伴い女性指導員が必要である。
教員、職員いずれにおいても、男女の区別に関わらず実力に応じて管理職への登用を行っている。
「第2期学長プラン」において、男女共同参画の環境整備を図ることとしている。
大学本部にて、男女共同参画の現状の把握と今後の取組みについて検討するため「男女共同参画に関する懇談会」を設置している。

課 題
性別による固定的な役割分担意識改革、女性の指導的地位への登用、男性の家庭生活への参画等を進める必要がある。
働きやすい環境づくりは、男女共通の課題として今後も取り組んでいかなければならない課題と認識している。
急な休みの取得が可能となるよう業務を複数で共有する職場体制づくり、ワーク・ライフ・バランスに関する意見や要望を積極的に汲みとるシステムづくりが求められる。
女性教員の割合と女性管理職の割合を増やす努力を続けていくこと。本校の教員のワークライフバランスについて改善していくこと。
教職員の純増は困難なため、女性職員の採用は欠員補充の機会を待つ必要があり、長い期間をかけて取組む必要がある。また、小規模な大学のため、推進担当の専門部署を設置することが難しい。
理工学系を志望する女子学生数がもともと少ないため、女子学生の割合も少ない。理系、もしくは技術職を志望する高校生の掘り起こしが必要である。
女性向けの研修会では、受講者は家庭や地域の用事等で時間の制約があり、出席できない場合がある。
ダイバーシティの必要性について意識啓発を図りつつ、第2次基本計画を策定することが課題であり、ジェンダー関連授業の充実や学生の参画も必要である。また、県内ネットワークにおいて女性教職員の交流を深め、県内の男女共同参画の推進を加速していくことが課題であり、南東北のネットワークづくりにも積極的に取り組んでいきたい。

「見つけよう、君の未来！やまがたで学ぼうフェア in 庄内」報告書**【開催日時】**

平成 30 年 11 月 4 日（日）10:00～16:00

【会 場】

イオンモール三川 1 階レーヴルモリタ前

【参加機関】**●展示パネル参加 34 校**

（東北芸術工科大学、東北公益文科大学、東北文教大学、放送大学山形学習センター、山形県立保健医療大学、山形県立米沢栄養大学、山形大学、羽陽学園短期大学、東北文教大学短期大学部、山形県立米沢女子短期大学、鶴岡工業高等専門学校、山形県立産業技術短期大学校、山形県立産業技術短期大学校庄内校、山形工科短期大学校、山形医療技術専門学校、山形歯科専門学校、酒田市立酒田看護専門学校、三友堂看護専門学校、篠田看護専門学校、鶴岡准看護学院、鶴岡市立庄内看護専門学校、独立行政法人国立病院機構 山形病院附属看護学校、山形厚生看護学校、山形市立病院済生館高等看護学院、酒田調理師専門学校、山形調理師専門学校、山形美容専門学校、山形理容学校、大原スポーツ公務員専門学校山形校、大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校山形校、新庄コアカレッジ、専門学校 山形 V.カレッジ、山形デザイン専門学校、山形県立農林大学校）

●体験ブース参加 7 校

（酒田調理師専門学校、羽陽学園短期大学、山形美容専門学校、山形県立産業技術短期大学庄内校、大原スポーツ公務員専門学校山形校、大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校山形校、山形歯科専門学校）

【来場人数】**●パネルエリア 339 人****●体験ブース 137 人**

内訳：酒田調理師専門学校「ホットプレートクッキング！！」30 人

羽陽学園短期大学「乳児（人形）おむつ交換体験・車椅子操作体験・視覚障がい体験」5 人

山形美容専門学校「ネイル・ヘアアレンジ体験」41 人

山形県立産業技術短期大学校庄内校「スカラロボットのプログラミング体験」33 人

大原スポーツ公務員専門学校山形校「公務員試験にチャレンジ！」3 人

大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校山形校「ビジネスシーンを体感しよう！～接客編～」0 人

山形歯科専門学校「歯科衛生士体験」25 人

※来場者や通行人に対し、県内進学促進パンフレット 200 部を配布。

【アンケート結果】

●学校紹介パネルについて

	とても参考になった	まあまあ参考になった	参考にならなかった	その他・どちらでもない
小・中学生	1人			
高校生	12人	2人		
その他	3人	3人		
合計	16人	5人	0人	0人

●体験ブースについて

	とても参考になった	まあまあ参考になった	参考にならなかった	その他・どちらでもない
小・中学生	9人	1人		
高校生	8人	1人		
その他	11人	1人		
合計	28人	3人	0人	0人

【ブース参加学校の意見・感想】

- ・高校生や中学生の参加が少なかったことは残念だが、広い意味で職業を知っていただくには良い企画だった。
- ・立ち止まってパネルを見る方や資料を手取る方は多くいたように感じる。
- ・家族連れで見学される方々にとって、山形の学校を知り、将来のことを考える良いきっかけになったのではないかと思う。
- ・庄内エリアは重点地域としているため、様々な企画やサポートをしてもらい非常に助かった。
- ・次回のイベントでは、高校訪問や高校ガイダンスにおける告知チラシの配布、学校HP上での告知など、お手伝いできると思う。事前にチラシを提供してほしい。

【運営側の意見・感想】

- ・学校案内の配布について、もらって良いのか尋ねる方がいたため、「ご自由にお取りください」等の表示があった方がよい。
- ・会場の電源位置の関係上、PR動画コーナーを学校紹介パネルから少し離れた場所に設置したが、見る方が少なかったため、各学校のパネル付近で動画を流した方がよい。
- ・内容により、集客が厳しいブースがあった。ブースは集客のためと割り切り、賑やかに客引きできる内容の方が良いかもしれない。その場合、学校関係者に具体的な話を聞きたい方のために、パネル脇で説明してもらおうなどの対応も考えられる。
- ・医療系の学校は早めに学校案内がなくなった。次回は多めに準備した方がよい。

- ・遠目でもわかるように、パネルより高い位置にイベント名の横断幕などがあるとよい。
- ・事前に庄内・最上地方の高校生に周知チラシを配布し、市町村広報にも掲載したが、それらを通じて来場した高校生・保護者は非常に少なかったように思う。
- ・会場内でイベントを実施している旨のアナウンスができればよかったと思う。
- ・アンケートボード（シール貼付形式）は気付いてもらいにくいため、動き回って聞き取りした方がスムーズに見えた。

以上

「見つけよう、君の未来！やまがたで学ぼうフェア」報告書**【開催日時】**

平成 31 年 3 月 9 日（土）10:00～16:00

【会 場】

イオンモール天童 1 階グリーンコート

【参加機関】**●展示パネル参加 34 校**

（東北芸術工科大学、東北公益文科大学、東北文教大学、放送大学山形学習センター、山形県立保健医療大学、山形県立米沢栄養大学、山形大学、羽陽学園短期大学、東北文教大学短期大学部、山形県立米沢女子短期大学、鶴岡工業高等専門学校、山形県立産業技術短期大学校、山形県立産業技術短期大学校庄内校、山形工科短期大学校、山形医療技術専門学校、山形歯科専門学校、酒田市立酒田看護専門学校、三友堂看護専門学校、篠田看護専門学校、鶴岡准看護学院、鶴岡市立庄内看護専門学校、独立行政法人国立病院機構 山形病院附属看護学校、山形厚生看護学校、山形市立病院済生館高等看護学院、酒田調理師専門学校、山形調理師専門学校、山形美容専門学校、山形理容学校、大原スポーツ公務員専門学校山形校、大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校山形校、新庄コアカレッジ、専門学校 山形 V.カレッジ、山形デザイン専門学校、山形県立農林大学校）

●体験ブース参加 8 校

（山形美容専門学校、山形歯科専門学校、大原スポーツ公務員専門学校山形校、大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校山形校、羽陽学園短期大学、山形病院附属看護学校、山形厚生看護学校、山形調理師専門学校）

【来場人数】**●パネルエリア 860 人****●体験ブース 232 人**

（内訳）

山形美容専門学校「ネイル・ヘアアレンジ体験」20 人

山形歯科専門学校「歯科衛生士体験」47 人

大原スポーツ公務員専門学校山形校「公務員試験の問題を解くコツを体験してみよう！」1 人

大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校山形校「電話を使って社会でのマナーや言葉遣いを体験してみよう！」2 人

羽陽学園短期大学「簡単な保育教材を作ろう／車椅子・視覚障がい体験」40 人

山形病院附属看護学校「血圧測定」20 人

山形厚生看護学校「血圧測定」100 人

山形調理師専門学校「調理師専門学校は、こんなことを勉強するよ！」2 人

※来場者や通行人に対し、2019年オープンキャンパス等日程一覧チラシ及び県内進学促進パンフレット 300 部を配布。

【アンケート結果】

●学校紹介パネルについて

	とても参考になった	まあまあ参考になった	参考にならなかった	その他・どちらでもない
小・中学生	1人	2人		
高校生	24人	9人		
その他	8人	6人		
合計	33人	17人	0人	0人

●体験ブースについて

	とても参考になった	まあまあ参考になった	参考にならなかった	その他・どちらでもない
小・中学生				
高校生	20人			
その他	9人			
合計	29人	0人	0人	0人

【ブース参加学校の意見・感想】

- ・大変多くの方々にご参加いただき、予想外のことで慌てる場面もあったが、より多くの方に歯科衛生士という職業を知っていただけたのではないかと思います。
- ・もっとスタッフを多くすれば丁寧な対応ができたかなと思う。
- ・通行人が多く、恥ずかしいと感じる女子中高生もいたのではないかと。体験ブースの位置をもう少し中央に寄せたり、ついたてのようなものを周りに設置したりすれば参加しやすいのではないかと思います。
- ・小学生以下のお子さんが多く、中高生の来場がもう少しいるとよかったと思う。
- ・子供の時から少しでもいろんな職業があることを知ってもらう意味ではよかった。
- ・思ったよりも来場者が多く良いイベントだと思った。
- ・主対象者である高校生よりも高校生の親世代、祖父母世代の来場が多かった印象。
- ・パネルを見ながら学校案内を受け取る者が多かった印象。
- ・体験ブースという名称だと、来場者にはハードルが高いように思う。相談ブースの方がまだハードルが低いのではないかと。
- ・グリーンコートよりもセンターコート、ウッドコートの方が来場者がより多くなりそうな印象。

【運営側の意見・感想】

- ・チラシを持参する学生や、団体の学生も多く見られたため、県内高校1・2年生全員へのチラシ配布や広報掲載等の事前周知の効果はある程度見られたと思う。
- ・「県内にこんなに学校があるとは知らなかった」との感想をいただいた。
- ・看護系の学校の学校案内が早い時間になくなり、残念という声が複数あった。
- ・運搬や準備の都合上、学校案内の設置部数の上限を1校あたり30部としていたが、予想以上に減りが早く、もっと多く準備できるとよかったと思う。

- ・東北文教大学のブース出展が中止となったが、当日、東北文教大学のブースを目的に来場した生徒が数名おり、大変残念だった。
- ・イオンモールの雰囲気の中で真面目な進学のプロモーションを行う mismatch 感があった。

【まとめ】

11月、3月の2回のイベントを通して多くの方にご来場いただいた。パネル展示により県内にある大学・短大・専門学校などの特徴を知っていただき、体験ブースにより専門技術等を身近に感じていただいたことで、自分自身やお子さんの将来のことを考えるきっかけの場を提供できたのではないかと思います。小中学生や小さなお子さんを持つ保護者世代の来場者が多かった印象があるため、高校生の集客方法や開催場所については改善が必要と思われる。